

●英雄の下に統合された「国家祭祀」の復原は、そのまま民族の歴史の再構成である。断絶した伝承を掘り起こし、膨大な口承と文書から探る幻のモンゴル民族史。

チンギス・ハーン祭祀

— 試みとしての歴史人類学的再構成 —

静岡大学 楊海英 著

本書は五つの章からなる。これら五つの論文はすべて現地調査に基づいて書かれ、それらの資料はモンゴル人の経験と記憶から得たものである。こうした民族に伝承されてきた経験と記憶を、文書資料と照合して補強すれば、より完全な歴史像が復元できるのではないかと、というのが筆者の方法論である。モンゴル人は口頭と文字両方の面で豊富な資料を有しており、研究者はこの二種の資料を有効に利用しなければならぬのである。

私は本書のタイトルに「チンギス・ハーン祭祀」という言葉を用いることにした。チンギス・ハーン祭祀は、「地域祭祀」ではない。また、「一族の祭祀」でもない。『蒙古源流』（一六六二年）の著者サガン・セチエンは、チンギス・ハーンの祭殿を「あまねく国々の守護神」と呼んでいる。それは、チンギス・ハーン祭祀はモンゴルの左右両翼六つの万户を統轄した国家祭祀であることを意味している。したがって、われわれは全モンゴルの視点に立ち、通史的にチンギス・ハーン祭祀を研究しなければならない。

このチンギス・ハーン祭祀は、今日に至るまでの長い歴史的なプロセスのなかで形成されたものである。一三世紀のモンゴル・ハーン国時代の人物や軍神類のみが祭祀の対象になったのではなく、それ以降の歴史のなかで登場した人物たちも次から次へと祭祀体系に吸収されていった。

たとえば、陰暦の三月二〇日の夜には、チンギス・ハーン一族の祖先を祭る儀礼がある。この時には清朝時代に至るまでの「黄金家族」の系譜を唱える。翌三月二一日の春季大祭には、モンゴル中興の祖たるバトムンク・ダヤン・ハーンの時代に活躍した人物たちの名も朗誦される。祭祀の場で使用されている系譜には、モンゴルの歴史観が反映されていると言えるのである。

(序文より)

序

第一章 チンギス・ハーン祭祀の政治構造

従来のチンギス・ハーン祭祀研究／八白宮の祭祀者集団ダルハト／八白宮の実態／八白宮の祭祀

第二章 黄金家族の祖先祭祀

祖先祭祀に関する従来の研究／歴史文書に見る末子トロイ・エジンの祭祀状況／祭祀者が伝えるトロイ・エジン祭祀の実状／トロイ・エジン祭祀と八白宮の関連 祖先祭祀の政治性

第三章 モンゴル帝国の国旗白いスウルデの祭祀

白いスウルデの歴史的背景とそれに関する従来の見解／白いスウルデを祭る祭祀者集団／白いスウルデの祭祀／白いスウルデの供物ジュマ／テキストに見る白いスウルデの祭祀／白色の象徴性

第四章 アラク・スウルデの祭祀

アラク・スウルデに関する従来の研究／文書史料から見た祭祀状況／祭祀者が語るアラク・スウルデの実態／アラク・スウルデの祭祀 アラク・スウルデの形状／アラク・スウルデの血祭／スウルデ祭祀の政治性

第五章 チンギス・ハーン祭祀の現在の意義

近現代史のなかの八白宮／相互に連動する諸祭殿／考古学資料の発見とその解釈／スウルデに託した願い

参考文献 あとがき 索引

体裁

・四六判・上製・カバー
・三二〇頁

定価

・二六二五円
(本体二五〇〇円)

発行所 風響社

114-0014 東京都北区田端四一―四一九
電話〇三(三八二八) 九二四九
http://www.fukyo.co.jp

発売 風響社 TEL: 03-3828-9249

税込み 二六二五円

部

楊海英 著

チンギス・ハーン祭祀

試みとしての歴史人類学的再構成

ISBN4-89489-106-9 C1039 ¥2500E

(お客様控え)

ご氏名

ご住所

お電話

月 日

注文書

センター取扱品
流通

小出版
地方